

港区立芝浜小学校
令和5年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う力を身に付けさせる。 ・日常生活における人との関わりの中での伝え合う力を育てる。 ・言葉を手掛かりとしながら論理的に思考する力や自ら表現する力を向上させる。 ・言葉がもつよさを認識する力や言語感覚を育てる。 ・国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	・全国学力・学習状況調査結果から、思考力・判断力・表現力等の「B 書くこと」においては、全国平均を下回っている。このことから、本文の読解や内容理解はできているが、自分の考えをまとめて書くことが課題である。 ・意味を理解している語句の数が少ない。また、漢字の習得、活用能力が低い。知識として知っていても、それを必要な場面で使ったり書いたりすることができないことが課題である。継続して習熟できるようにしていく必要がある。	・目的をもって学習に取り組めるよう、明確で必要感のある学習課題や学習計画を設定する。また、児童がめあてをもって学習に取り組んだり、自分の学びを振り返り、次に生かしたりすることができるように指導する。 ・指導者が学習の系統性を意識し、児童の学習経験や既習事項等をしっかりと把握した上で、必要に応じて繰り返し指導したり、次の学習を見通して指導したりするなど、実態に応じた指導を行う。 ・学習に応じて話し合ったり伝え合ったりする場（ペア・グループでの話し合い）を意図的・計画的に設定する。また、話したり聞いたりする必要感のある場面を設定する。その際、話したり聞いたりするときのポイントやルールを分かりやすく具体的に提示する。 ・「書くこと」への苦手意識や抵抗感を減らすために、日常的に文や文章を書く機会を増やす。 ・書くことにおいて、記述に入る前の題材設定、情報収集、内容・構成検討等の段階における指導を丁寧に行うなど、学習過程に沿って段階的に指導する。また、記述後の共有も大切にし、友達だけでなく自分の文章のよさにも気付けるようにする。 ・言葉そのものに興味をもたせたり、言葉のよさに気付かせたりすることができるよう指導を行う。 ・漢字学習においては、反復練習にとどまるのではなく、熟語を集めたり文中で漢字を使ったりするなど、日常生活の中で実際に活用する力につながるよう学習を計画する。その際、辞書を活用するなどして、語彙を広げられるようにする。また、漢字そのものに興味をもたせたり、漢字のよさに気付かせたりすることができるよう指導を行う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	・社会生活に適応し、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。 ・社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり、解決したりする資質・能力を向上させる。 ・身近な地域や区や都についての理解を深め、地域社会に対する誇りや国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。	・資料の読み取りを苦手としている児童が多い。 ・調べ学習を意欲的に行っている児童が多いが、正しく理解することができていない。 ・自ら課題を発見し、解決しようとする意欲をもつことが課題である。	・中学年では、体験や知識と資料・情報を結び付け、分かったことや気付いたこと、考えたことをノートにまとめ、交流する活動を行う。 ・高学年では、文章、写真、地図、年表など様々な資料に触れる機会を設け、できるだけ身近にある話題に触れながら、既習事項を活用し、自分の考えを話したり、記述したりしていく。 ・一人一台のタブレットを有効活用し、主体的に調べることができるよう活動時間を十分に確保する。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	・論理的に考え、説明したり、判断や考えの正しさを説明したりする能力を向上させる。 ・文章問題を正確に捉え、立式をする力を向上させる。 ・量的な感覚を身に付けさせる。 ・算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を育成する。	・全国学力・学習状況調査結果から、二次元表から条件に合う数を読み取ることに課題が見られる。 ・児童の既習事項の定着については、個人差が大きい。 ・課題解決に向けて、自分の考えを図や式を関連付けて説明することが課題である。 ・友達の考えを聞いて、学びを深める経験が不足している。 ・量感をつかむことを不得手とし、長さ、重さ、面積などの単位の変換が課題である。 ・文章題などを解く際に文章を正しく読解することが課題である。	・今まで学習したことで、どのようなことが使えるかという視点をもたせ、問題を解決させる。また、学習感想を書く際には、身に付けた能力を活用できる場面や、さらに学習を深めたいことなど、視点を提示して書かせる。 ・集団解決の検討場で、解決方法を言葉・式・図などを用いて発表する場面を設定し、友達の考えに対して共通点や相違点について考え、新たに自己が学んだことを明確にする経験を積ませる。 ・身近にあるものを測定させたり、具体物や半具体物、ICTを活用させたりするなど、体験的な活動を多く取り入れることで長さや重さなどの量に関するイメージを豊かにする。 ・問題場面を正確に捉えるために、授業で文章問題を扱うときには、「分かっていることは何か。」「どんな条件が提示されているのか。」「何を求める問題か。」を明確にするため、色分けして提示するなど、板書を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	・生き物や科学的事象に興味をもち、すすんで問題を解決しようとする態度を身に付けさせる。 ・自然に親しみ、見通しをもっての活動を通して、課題を科学的な見方で解決する力を向上させる。 ・自然事象や生き物についての知識・理解、観察・実験などの基本的な技能を身に付けさせる。	・実際に自然や生き物に触れる機会が少ない。 ・仮説を立てて観察・実験の計画を立案することや、得られた結果から筋道を立てて自分の考えを説明したり、論理的に結論を導いたりする力に課題が見られる。 ・実験や観察をする際の器具の扱い方に関する知識やそれらを扱う技能を向上させることが課題である。	・動植物との関わりや体験活動については、区内の施設等を活用し、実物に触れさせる機会を作り、児童が主体的に学ぼうとする態度を養うとともに、実体験に基づいた知識が得られるようにする。 ・自然事象について「課題の発見」「実験方法の検討」「結果の予想」「実験結果からの考察」「まとめ」という学習手順を明確にして、問題解決の活動を丁寧に行い、学習の定着を図る。 ・理科支援員と連携を図り、観察・実験を行う際に、全ての児童が器具を扱うことができるよう準備を整え、扱い方や、目的に応じて扱うことを繰り返し指導する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	・活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 ・身近な人々、社会及び自然と自分との関わりを捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する力を育てる。 ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。	・実際に「見る・聞く・調べる・探す・触れる・育てる・作る・遊ぶ」など、直接対象に働きかける活動機会が少ない。 ・「調べる、育てる、作る」などの活動や、学校や家庭などにおける自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したりして表現することが課題である。 ・自分なりの発想を大切に考えたり、工夫したり、調べたりすることが課題である。	・児童の気付きの質を高めるために、活動に没頭したり何度も繰り返し挑戦したりすることができるよう、体験活動を行う。 ・様々な体験活動をした際に、考えたり工夫したりしたことについて、発表や交流、話し合いや伝え合いなどの表現活動を行う時間や場を十分に確保する。 ・身近な人々、社会及び自然と十分に関わることができるよう体験活動を充実させる。また、児童が満足感や達成感など、「やり遂げた」という気持ち味わうことができるよう、活動内容を工夫する。 ・単元のつながりや関連を意識して、学校や地域の特色、児童の実態等に応じて、2年間を見通した学習になるよう、指導計画を改善する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・曲想と音楽の関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 ・音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴く力を育てる。 ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。	・児童が、音楽を形づくっている要素などの働きを理解し、表現や鑑賞などに生かすことが十分にできていない。 ・音や音楽から、気付いたことや感じ取ったこととの関わりに気付くことに課題がある。 ・児童が楽しく音楽に関わることや、音楽を学習する喜びを得ることが少ない。	・音楽の構造と曲想との関わりなどについて実感をもって理解することができるように、表現について思いや意図をもったり、曲のよさを見いだし味わって聴いたりする場面を設定する。 ・音楽を聴いたり表現したりする過程で、互いに気付いたことや感じ取ったことなどについて伝え合い、共有したり共感したりする場面を設定する。 ・音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚できるように、音や音楽との出会い方や学習過程を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、表現するために必要な技能を身に付けさせる。 ・造形的なよさや美しさについて考え、発想・構想する力を育てる。 ・つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造する態度と情操を培う。	・自分がイメージするものを表現する方法や技能が十分に身に付いていない。 ・自分の作品の良さを言葉で表現する経験が少ない。 ・表現する喜びを十分に感じることができていない。	・見通しをもって学習に取り組めるように、題材のねらい、材料の特性、制作手順を明確に提示する。 ・作品発表会で互いに思いを交流し、考え方や感じ方を広げる学習活動を行う。 ・つくりだす喜びを感じられるよう、材料や題材との出会わせ方を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けさせる。 ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 ・家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。	・衣食住について学んだことを日常的に実践する経験に個人差があり、知識や技能の差が大きい。 ・日常生活における課題意識が低いため、日常生活の事象を課題と捉えたり、解決したりしようと思えることが難しい。 ・家庭生活を大切にしようとする心情は見られるが、家庭環境や生活状況から、自らの役割を果たしたり、生活をよりよくしようと工夫したりする場が少ない。	・技能の習得状況に応じて、個別指導を行ったり、ICT機器を活用して復習しやすい環境を整えたりして、指導方法を工夫する。 ・保護者の協力を得て、家庭での実践を多く行う。 ・学習の振り返りの時間を確保し、自分の生活と比較させ、日常生活の課題に気付かせるようにする。 ・家庭科通信を発行し、保護者に学習状況を伝えたり、学習カードに保護者のコメントをもらったりするなどをし、家庭との連携を図る。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・特性に応じた各種の運動の行い方及び健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けさせる。 ・自己の課題を見付け、その解決に向けて判断するとともに、他者に伝える力を向上させる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	・新体力テストの結果から、ソフトボール投げでは、全国、東京都の平均を下回っており、男子も女子も共通して、投力に課題が見られる。 ・女子の、持久力に課題が見られる。 ・体育学習では、自己の課題を見付けられる児童は多数いるが、課題解決しようとする力が十分ではない。 ・教員に課題解決の方法や練習方法等を聞きに来る児童が多く、解決方法を思考する力が十分ではない。	・外部講師からの指導や出前授業の活動等を活用して、投力を向上させる。 ・体育学習の準備運動に3分間走を取り入れる等により、持久力を身に付けさせる。 ・課題意識をもたせて自ら課題解決できるようにするために、毎時間学習のめあての確認と振り返りを行う。 ・タブレット等を活用し、自己の現状を正しく把握することにより、課題設定につなげていくとともに、模範となる動きの共有を図る。練習方法等を動画で説明し、より具体的に課題解決につなげる。 ・模範となる動きを全体場で、紹介することで、児童同士で教え合い、学び合えるようにする。 ・課題解決できる場を数多く設定し、自ら意図をもって取り組めるようにする。

			・運動の特性を教員が把握して授業に臨めるよう、定期的の実技研修を行う。
--	--	--	---

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・外国語の語感を養い、学んだ文や言葉を表現する力を育てる。 ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて理解し、実際に活用する力を身に付けさせる。 ・アクティビティや歌などを取り入れた外国語活動を通して、友達と外国語を使ったコミュニケーションを楽しみ、すすんで話そうとする力を育てる。	・自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことが課題である。 ・日常生活に関する身近な事柄について話したり、友達とやりとりしたりすることが課題である。 ・「聞くこと」「話すこと」においては、目的や場面状況などに応じてすすんで話すことが課題である。	・歌やチャンツ、フォニックスを取り入れ、英語の音とリズムを身に付けさせる。 ・楽しいアクティビティや歌を取り入れることによって、外国語を使う機会を増やす。 ・NT と連携し、授業の中で外国の文化や習慣を児童に伝えるスモールトークを定期的に行う。 ・外国語の語彙力を強化させるために日常生活で使う単語を実践的に紹介し、関連した単語を紹介する。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える力を育てる。 ・自分自身や他者を大切にし、よりよく生きようとする心情や道徳的な判断力、実践する力を育てる。	・資料を読み、人物の気持ちを考えながら読むことはできるが、発言に個人差がある。 ・道徳で学んだことを、普段の生活に生かすことができていない。	・指導観を明確にし、発問を精選することで児童から多様な考えを引き出す。 ・構造的な板書を意識して、学習を終えた後に児童が振り返られるようにすることで実践意欲を高める。 ・展開後段では自己を見つめる時間を十分にとり、自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めていけるようにする。 ・日常の様々な場面で道徳的な実践ができたことを取り上げて称賛するなど、日頃から児童の心を育てる必要がある。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・多様な他者と協働するような様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けさせる。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる力を身に付けさせる。 ・自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び、人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め自己表現を図ろうとする態度を養う。 ・学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事における多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団を育成する。	・他者と協働する経験が十分でないため、自ら課題を発見し、解決する力に課題がある。 ・異学年集団において、学年枠を超えて互いを高め合う経験が不足している。 ・学級会等において、話し合いの手順に沿って進めることに課題がある。	・代表委員会や高学年の児童の声を生かした自主的な活動について継続して取り組んでいく。 ・行事の前に、前年度の行事の写真や動画を見せるなどのオリエンテーションを取り入れる。 ・児童会活動や、キャリア教育の時間を調整しながら年に2回程度、1時間の縦割り班活動時間を設定できるように計画し、上学年の児童と下学年の児童が関わる時間を増やす。 ・低・中・高学年ごとに学級会オリエンテーションを提示し、話し合いの進め方を理解させ、実践できるようにする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解させる。 ・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を身に付けさせる。	・児童が自分事として取り組める課題を設定することに課題がある。 ・学習活動においては、個人で活動する時間が多く、他者との考えをつなげる意図的な場の設定が十分ではない。 ・地域の施設や企業と連携した学習を行う際に、指導計画に明確に位置付けて行う必要がある。 ・単発的な体験や講話は、探究的な学習になりにくいことが課題	・実社会や実生活の課題についての探究のプロセスを通して、児童が実際に考え、判断し、表現する力を身に付けさせる。そのために、探究のプロセスが2サイクル以上できる単元を開発するとともに、児童が主体的に課題設定し、解決することに指導の重点を置く。 ・他者と協働的に取り組み、異なる意見を生かして新たな知を創造しようとする態度を育てる。そのために、個人の考えをグループで展開する学習やグループの意見をつなげることでクラスの考えを創造していく授業展開を推進する。

	・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	である。	・地域の施設や企業を学習過程で関わらせることで、より自分事として主体的に取り組むことができるようにする。 ・地域の人々と触れ合うことによって、相手意識を高め、社会に参画しようとする態度を高める。
--	--	-------------	---